

# 9月21日は「世界アルツハイマーデー」



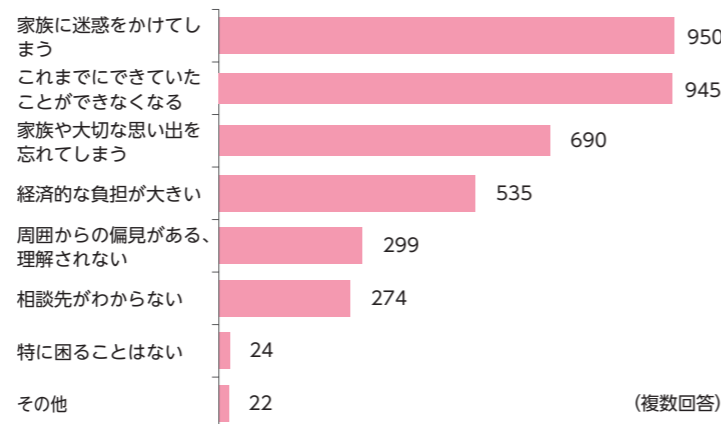
世界アルツハイマーデーは、国際アルツハイマー病協会(ADI)が認知症の理解を進め、本人や家族への施策を充実させることを目的に1994年に制定されました。この機会に、認知症について、あなたや家族の状況に置き換えながら考えてみませんか。

## 知ってる？ 認知症 市民の認知症への意識 ~eモニターアンケート結果から~

認知症に関する市民のイメージについてご紹介します。認知症の本人や家族は、自身や家族の状況を受け入れられなかったり、周囲に理解されないことで落ち込んだりすることがあります。ただ、認知症により起こる状態や行動がその人のすべてを表すものではありません。市は、認知症であってもなくても、その人らしさを大切にしながら暮らし続けることのできるまちを目指しています。

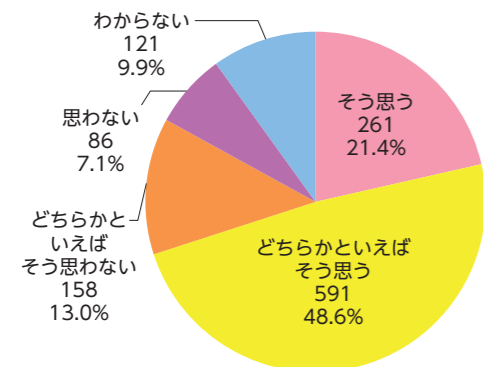
### ? 認知症のイメージは?

認知症のイメージとして多かったのは「家族に迷惑をかけてしまう」(950人)、「これまでにできていたことができなくなる」(945人)です。一方、「特に困ることはない」は24人と少なく、認知症になると生活面で困難なことが多くなると考えている人がほとんどであることがわかります。



### ? 認知症の人は周囲から偏見を持たれていると思いますか?

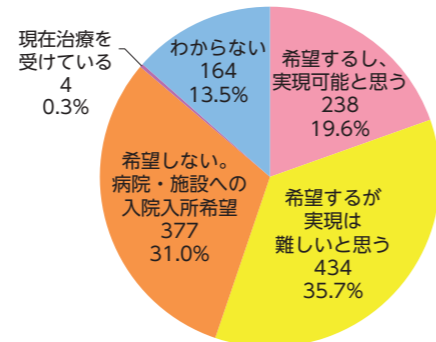
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の合計は70%で高い値となりました。



※令和3年2月実施。登録者(市内在住・在勤・在学者)全1638人中、1217人(約74.0%)が回答。

### ? 高齢・認知症になったとき在宅医療を希望しますか?

在宅医療を希望する人は計55.3%に上りました。しかし35.7%の人は、希望しても実現は難しいと考えています。



## 知ってる？ 認知症 認知症の人や、取り巻く人の暮らし ~市内の3つのケース~

### ケース01 専門職に相談



父(要介護1)、母(要介護2)と同居するAさん

春頃、母が繰り返し同じことを言ったり、父に対し攻撃的になったりすることに気づいたんです。トイレの失敗も続き、認知症とわかりました。

すぐに市のHPを調べ、地域包括支援センターに相談。ここの専門職の方の頼もしさといったら…。優しく丁寧に話を聞いてくれて、スムーズに要介護認定の手続きが完了。要介護2と認定され、デイサービスを利用できることになりました。

兄妹はいますが、同居している私が主となって介護をしていくしかないのかなと思っています。母との思い出、これからどうなるのかという思いが入り乱れて涙が出ることも。金銭面の負担はできないので、母の貯金で介護サービスを利用していきしかありません。不安はつきませんが、ケアマネさんや包括支援センターの存在が心の拠り所です。

### ケース02 自宅で介護



息子の妻の介護を受けて自宅で生活するBさん(83歳・要介護1)



Bさん(義母)を自宅で介護するCさん

認知症に気付いたのは、おばあちゃんが70歳の頃。主人がその頃亡くなり、40代半ばにして一人きりで介護が始まりました。途方に暮れ、知り合いにデイサービスの高橋さんを紹介してもらい、サポートを受けるようになりました。

ご飯を食べない、一人で出て行ってしまっ困る、イライラしてしまうと、Cさんからはいろいろな相談を受けてきました。介護サービスを使うことに罪悪感を感じるとも。「うまくサービスを使えばいいんだよ」と伝えながら、地域の人を誘って茶話会を開く等、二人がそれぞれ楽しく過ごせるような方法を探ってきました。



高橋さんがいなくなったらどうなっていたか。アドバイスを受け、短期入所等の介護サービスを使ったりご近所に助けてもらったりするように。介護5年が過ぎた頃から、やっと少し力が抜けてきました。



介護タクシーエン(新田町)代表 高橋成行さん



### 憩いの広場 縁

毎週水曜日の午前10時~正午、サロンが開催されています。楽しいイベントもあります。高橋さんもスタッフとして参加。遊びに来ませんか。1回100円 問合せ：市社会福祉協議会(☎77)7888)

Bさんは13年間、介護度が進行していません。介護がうまくいっていることの証。これからも一緒にがんばりましょう。

### ケース03 グループホーム入所



認知症対応型 共同生活介護 グループホームじけい 吉崎久弥さん

グループホームでは、皆さんが助け合いながら共同生活をしています。料理が好きな方には食事作りを手伝っていただくことも。自宅にいた時は危ないからと止められていたことも、スタッフが見守っているので可能なんです。自由楽しく過ごしてほしいというのが職員の思いです。

家族を施設に入れることに引け目を感じる話を聞きます。でも、入所後も家族との交流は密ですし、家庭の延長とってもらえれば。他



の入所者や地域の方とのふれあいは、とても良い作用があります。

認知症の家族を自宅で介護するのはとても大変です。少し距離をとって生活することで、従来の親子関係を取り戻し、優しくなることも。施設入所は、ご本人とご家族、そのどちらにとっても、良い選択肢のひとつだと思います。

知ってる？  
認知症

## 自身や家族が認知症になったときのために備えておく

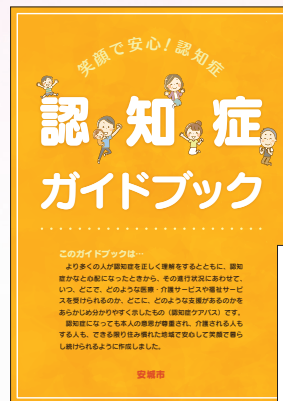
### 安城市認知症ガイドブック

家族が認知症かな？と心配になったときから、その進行状況にあわせて、安城市にはどのような支援があるのかをわかりやすく案内しています。

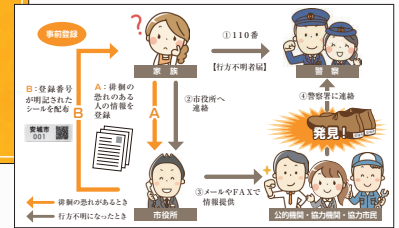
#### ■主な内容

- 認知症に気づくためのチェックシート
- 「こんなときはどうする？」望ましい対応
- 市内のサロンや認知症カフェの紹介
- 介護保険サービス一覧
- 認知症相談機関一覧 他

全22ページを市HPに掲載(右記QRコード参照)。高齢福祉課・各地域包括支援センターでも配布しています。



イラストや図、表を使ってわかりやすく案内しています  
編集協力：安城市地域ケア推進会議、八千代病院愛知県認知症疾患医療センター  
作成：令和2年3月



### 認知症を知る手がかりに ～書籍紹介～

認知症について理解を深める助けとなる書籍や、相談窓口等の情報を掲載した資料・リーフレットを展示します。また、市内で活躍する認知症等の専門職が選ぶ「ぜひ、読んでほしい1冊」を集めたリストも展示。認知症になった本人の気持ちや、介護をする上で必要な考え方がわかる書籍・絵本等を紹介します。

■展示期間 9月1日(水)～30日(木)

■展示場所 図書情報館(アンフォーレ本館内) 2階

#### 一部をご紹介！



「高齢ドライバーに運転をやめさせる22の方法」

川畑信也

(小学館/2019刊)

「生活に直結する難しい課題の手がかりとなれば。イラストもありわかりやすいです」(推薦：地域包括支援センター職員)



「忘れても好きだよ おばあちゃん!」

ダグマー・H・ミュラー

(あかね書房/2006刊)

「アルツハイマー認知症について、記憶を木の葉に例えながらのお話、挿絵があなたたかく、わかりやすく、優しいです」(推薦：生活支援コーディネーター)

### 認知症を知る講演会 「若年性認知症と共に歩む人のサポートについて～知っておきたい大切なこと～」 (Zoomによるオンライン方式)

■日時 9月21日(火)午後1時30分～3時

■講師 山口喜樹氏(愛知県若年性認知症総合支援センター・若年性認知症支援コーディネーター)

■申込み 8月17日(火)～9月14日(火)に、あいち電子申請・届出システム(右記QRコード参照)又は、件名に「認知症を知る講演会」と明記し、氏名・年齢・住所・電話番号・Eメールアドレスを、Eメールで高齢福祉課(koufuku@city.anjo.lg.jp)へ  
※申込受付後、Eメールでアクセス方法を案内します。  
※Zoomの環境整備等は各自でお願いします。



### ～これであなともサポーター～ 認知症サポーター養成講座

■日時 9月17日(金)午前10時～11時30分

■場所 社会福祉会館

■講師 安城市キャラバンメイト

■定員 20人(先着順)

■申込 8月18日(水)から直接か電話で総合福祉センター(☎ <77>7888)へ

#### ■その他

- 新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、開催方法の変更や中止をする場合があります
- 認知症サポーターのためのステップアップ講座を10月12日(火)・26日(火)に開講します(全2回)。詳細は本紙9月号でお知らせします